

JBL4350A 奮闘記(3) —プリアンプの選択—

1. 始めに

前報(2)のマルチアンプシステムの調整と並行してプリアンプとパワーアンプの選択を行ってきましたが、今回はプリアンプの選択について報告いたします。

2. プリアンプの選択

最初に使用したのは Lux の CL30 でした。次にもう少し切れ味のよいものということで同じく Lux の CL36 を使用し、同時にパワーアンプの選択を行って行きました。この間、LEAK の Point1 を入手してこれを使ってみたり、震災でスペースを縮小せざるを得なくなったオーディオ仲間から Tannoy の Arden とともに譲っていただいた McIntosh の C29 を使ったりしました。いずれもそれ自体どこがどう悪いとも言えないのですが、あるところで聴いた若松通商マランツ 7 タイプキットがコストパフォーマンスが良く好みの音がしていましたのでこれに替えてプリアンプは落ち着きました。このものはキットですから改造が容易で、特に真空管は TELEFUNKEN の刻印を差したり、MULLARD にしたり、GE にしたりして勉強材料として大いに活用できました。この間、LEAK の Point1 と McIntosh の C29 は単身赴任先に持って行って、これらはそれなりに役に立ちました。その後、単身赴任先から引き揚げ、現地で購入した、しなの音蔵のオリジナルナルプリ(写真)がメインシステムに組み入れられています。



3. パッシブアテネーターの導入

上記のプリアンプに加えて Ex-Pro の抵抗切り替え式アテネーター SA-1 と巻線ボリューム式アテネーター SV-1 も使用し、特に SV-1 の方の音がすっきりとしていてマランツ 7 タイプキットと切り替えて使用していました。

現在、CL30 と CL36 と SA-1 は手放しましたが、LEAK の Point1 はサブシステム用、McIntosh の C29 は居間の Arden 用、マランツ 7 タイプキットと SV-1 は別宅の Autograph MINI や III LZ 用として現用のものとなっています。

4. フェーダーの追加

しなの音蔵のオリジナルナルプリで落ち着いていたのですが、しなの音蔵に勧められて P&G フェーダーユニットを使ったしなの音蔵アセンブルのフェーダーを導入しました。現在、プリのボリュームはいっぱい上げて、プリとチャンネルデバイダーの間に挿入したフェーダーで音量調節を行い、しなの音蔵プリ→しなの音蔵フェーダー→チャンネルデバイダー F-15 という構成で落ち着いています。このフェーダーは非常に音の抜けがよく気に入っています。

以上